

73 ホンダ テクニカル カレッジ 関東

Honda Technical College Kanto



完敗からのスタート 次大会に向けて

H-TEC Racing Team

H-TEC Racing Team

<https://sites.google.com/site/htecracing/>



Presentation プレゼンテーション

マシン名: **HFS-010**

私たちH-TEC Racing Teamは、参戦初年度より一貫して「軽量・コンパクト」をコンセプトに大会最軽量をめざし設計・製作を行ってきました。2014年度は新たに「旋回性能」を高めるべく、軽量化に加え、低重心化を進めてきました。そこで私たちがたどり着いたコンセプトは、縦横無尽に飛びまわる「ツバメ」をイメージした「スワローウイング」でした。

私たちはコンセプトを元に、カウル・エンジン・排気・燃料などを全て一から見直し設計しました。特に私たちが力を入れたのはボディカウルです。ボディカウルには今大会に出場したチームのなかで唯一ポリエチレンテレフタレートを用いて製作しました。また、他チームではあまり見受けられないリヤカウルを製作することにより、「スワローテール」を表現できたと思います。「スワローテール」を実現するために、エキゾーストパイプの新規製作や、燃料タンク、電装品の配置など、随所にこのコンセプトを実現するため設計・製作を行ってきました。

Participation report 参戦レポート

今年度は、マシンの製作が遅れ、出発の前日まで作業しているという状態でした。大会初日はプレゼンテーション審査を、2日目にデザイン審査を受けました。静的審査では、チームとして審査の本質を理解しないまま、審査に臨んでしまったため、結果として、思うような得点を得ることができませんでした。大会4日目に行われた、静的審査における、フォローアップセミナー、フィードバックプログラムへの参加を通じ、大会での静的審査の重要さや、モノづくりに関するコンセプトの必要性など、チームメンバー共々、深く知り得たと思います。

車検では、2日目に受けた技術検査において、レギュレーションの読み込みの少なさから、数多くの箇所を指摘されてしまい、車検を通すことができたのは、翌日の午後でした。オートクロスの時間までには間に合ったものの、結果として、アクセラレーションや、上位を目標としてきたスキットパッドに出走することができませんでした。オートクロスでは、スタート後すぐにマシンがスローダウンしてしまい、オートクロスでタイムを残すことができませんでした。同時に、エンデュランスへの出走権も失い、チームとして最悪の結果に終わってしまいました。

今大会では、理想とは真逆の結果に終わってしまいましたが、チームの活動目標でもある「個々の成長」という面では、達成できたと思います。今大会の悔しさをバネに、次大会では全審査完走をめざしたいと思います。



今回の総合結果・部門賞

●総合80位

Profile チーム紹介・今までの活動

H-TEC Racing Teamは、今年で発足10年目となりました。チーム発足当時より、単気筒エンジンによる軽量マシンをコンセプトとして活動してきました。また、私たちはこの大会で成績を残すということ目標はありますが、それ以上にチームメンバーのひとりひとりが成長するということを目標に活動しています。学生が自ら行動し主体的に作業に取り組むというのが私たちのモットーです。

Team-member チームメンバー

砂押 恭平 (CP)

法原 淳 (FA)、須藤 佑作、石川 英志、
芝崎 啓太、関 拓朗、鈴木 雄祐、佐藤 快、
渡邊 拓也、轟 祐一、本田 菜梨枝、藤澤 直人、
菊地 佑貴、柴田 雄哉、横田 一貴、竹澤 洋子、
渡辺 ブルノ、岡本 宏介

Sponsors スポンサーリスト

本田技研工業、深井製作所、タカタ、F.C.C.、
豚骨ラーメン指禅

Team-Movie <http://www.jsae.or.jp/formula/jp/12th/movie/73.html>